

診療科 血液内科	疾患名 多発性骨髄腫
-------------	---------------

レジメ名 DLd療法(1-2コース)	投与間隔 1コース 4 週間 計 2 コース
-----------------------	--

商品名	一般名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日									
						day1	day2	day8	day9	day15	day16	day21	day22	day23	
ダラキューロ	ダラツムマブ		1800mg/body/day	sc	3-5分	●		●		●			●		
レブラミド	レナリドミド	LEN	25mg/body/day	po		← day1～21連日投与 →									
レナデックス	デキサメタゾン	DEX	20mg/body/day	po	注1	●	●	●	●	●	●		●	●	

備 考

- ・注1: 初発例ではday1、8、15、22のレナデックスは40mgとする。75歳超またはBMI<18.5kg/m2例ではday1,8,15,22のレナデックス20mg経口投与のみに省略可。
- ・レブラミドは毒性に応じて15mg、10mg、5mgに調整。Ccr 30～60mL/min例(再発難治例)、Ccr 30～50mL/min例(初発例)では当初から10mgに減量。
Day1、8、15、22はダラキューロ投与前または同時に投与。
- ・infusion reactionを軽減させるために、本剤投与の1～3時間前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤、副腎皮質ステロイドホルモンを前投薬する。具体的には、1時間前までにカロナール900mgを内服し、レナデックス、ポラミン5mgを内服する。
- ・気管支喘息や呼吸機能検査でFEV1.0<80%のCOPD例では、2日間はポラミンなど抗ヒスタミン剤の内服、短期間作用型β 2アドレナリン受容体作用薬の吸入および原疾患の治療(気管支喘息では吸入ステロイド±長時間作用型β 2アドレナリン受容体作用薬、COPDではスピリーバやアドエアなどの長時間作用型気管支拡張薬±吸入ステロイドの事後投与)が考慮される。
- ・ダラキューロ投与24時間以降に発現する遅発性infusion reactionを軽減させるため、必要に応じてレナデックス20mgの内服追加を検討する。ただし、ダラキューロ投与翌日にもともとレナデックス投与予定の場合は追加不要。

登録年月日 2021年 6月 9日

登録No. No. 474-1
